



Hi-Ho-News にゅーす



公益財団法人
環境科学技術研究所
(環境研)

2023年 秋号

排出放射性物質影響調査に関する情報を紹介いたします。

酷暑の中、たくさんの来場者に感謝!! ～ 環境研サイエンスフェア ～

7月30日(日)、環境研の調査研究内容について実際に使用している施設を見て理解してもらう事や、夏休みの子供たちを対象とした科学体験や工作を行い科学により興味を持ってもらうことを目的として、環境研サイエンスフェアを開催しました。

科学体験では、土や石などによって水をきれいにする実験「SDGs!水をきれいにしてみよう」や、顕微鏡観察のプロの指導の下、研究で使用するマウスの病理標本や子供たちに大人気のクワガタなど昆虫の観察「ミクロの世界をのぞいてみよう」を行いました。

さらに外部機関からの出展として、日本海洋科学振興財団(おつ海洋研究所)からは浮沈子の工作体験「浮いたり沈んだりするお魚」、六ヶ所村立郷土館から「弓矢体験」と六ヶ所村で出土した縄文土器の展示が行われ、大変な賑わいでした。また、ボランティアスタッフとして六ヶ所高校、八戸高校のフレッシュな力が加わり、受付や科学体験の説明、指導など、大活躍して頂きました。

当日は30℃を大きく超える酷暑の中でのフェアでしたが、400名近い来場者があり、大盛況のうちにサイエンスフェアを終えることができました。



ボランティア大活躍



さあ、水をきれいにしてみよう!



立派な科学者! 見えてます!



ロックオン! 縄文人の気分



トリチウム研究ですか? フムフム



六ヶ所発明クラブ 来てくれました!

サイエンスフェアで国際交流 ～ ガーナ共和国 原子力委員会が施設・フェアを視察 ～

サイエンスフェア同日、ガーナ原子力委員会のメンバーら総勢10名が来所しました。ガーナでは原子力の導入に向けた検討を進めており、青森県内の原子力関連施設の視察が行われ、その一環として当研究所の訪問が実現したものです。

双方の代表の挨拶の後、サイエンスフェアで公開している実験施設の他、魚類を対象とした実験施設や低線量率放射線照射室などを見学した他、サイエンスフェアの様子も見て頂きました。



ようこそ環境研へ!

尾駱沼の豊かな自然を知る ～ 村立尾駱小学校 尾駱沼で環境自然学習 ～

7月14日、尾駱小学校3年生28名の児童が参加し、尾駱沼で環境自然学習会が行われました。環境研では日ごろから六ヶ所村の動植物や環境について研究しており、その豊かな知識と経験を児童達の教育に生かしたいと考えています。

この日は尾駱沼付近に自生する植物の観察や植物を使った遊びをしたり、沼にやってくる野鳥についてお話を聞いたりと児童達は時間を忘れて双眼鏡や望遠鏡で観察したりと学習会を楽しんでいました。

野鳥が少ない時期ではありますが、日頃あまり見られないミヤコドリが複数個体観察できるなど、良い機会となりました。

尾駱沼湖畔でみんなで記念撮影



いろんな植物があるなあ



野鳥、見えます！



研究紹介：尾駱沼のことなら環境研にお任せ！ 隅から隅まで調べています。

六ヶ所村の大型再処理施設と環境科学技術研究所の間にある尾駱沼は、海水と淡水が混じりあう汽水湖であり、多種多様な動植物が生息・群生する村を象徴する湖沼の一つです。尾駱沼には再処理施設から直接排水が流入することはありませんが、六ヶ所村沖合の海洋に排出される放射性物質が潮流によって流入したり、主排気筒から大気中に排出された放射性物質が沼上流や沼の水面に落下したりすることが想定されます。

環境研では、沼の水や底土などのサンプリングを定期的に行い、沼の状態や流れなどの基礎的なデータを数多く測定して、データを蓄積しています。それらの結果は論文として専門誌で発表され、それらから派生して分かる様々な事は、地域の教育機関対象の環境自然学習にも役立てられています。



↑ 尾駱沼でのサンプリング作業の様子（遠景は再処理施設）

← 尾駱沼に関する調査結果（環境研ホームページニュース）

調査研究の成果を知って欲しい 環境科学セミナーの六ヶ所での開催と今後の予定

六ヶ所村スワニーで9月7日（木）に「うみとうみの生物」と題し、海洋に関する基調講演や環境研、海洋財団から調査研究の成果報告を行い、102名の方にご参加いただきました。

今後、10月、11月にかけて同様のセミナーを青森市、弘前市、八戸市で開催する予定です。詳細はホームページ（QRコード参照）をご覧ください。



ご来場、ありがとうございました

お問い合わせ先（放射線に関するご質問も受け付けております）



公益財団法人
環境科学技術研究所 共創センター

ホームページ <https://www.ies.or.jp/>
メールアドレス kanken@ies.or.jp
電話（FAX） 0175-71-1240（71-1270）

本誌は青森県からの委託により制作しています。